

平和を未来につなげよう

今から70年以上前に
私たちの暮らしを変える大きな出来事がありました。

「戦争」です。

平穏な暮らしを一変させた、忘れてはならない、
決して繰り返してはならない出来事。
今の世を築いた先人たちの思いに応えるために、
今、私たちにできることを考えてみませんか。



▲当時の火工廠

ふじみ野市と戦争

ことしは、太平洋戦争が開戦してから80年という節目の年です。日本では、終戦まで徴兵制度が敷かれ、多くの成年男子が兵士として戦場に向かいました。また、学校でも強くてたくましい兵士を育成することが教育目的の一つとされました。このように戦争は全ての国民にとって身近なものでした。ふじみ野市も戦争と関わりがありましたので、その一部を紹介いたします。

日本では、太平洋戦争中の昭和16〜20年に300万人を超える多くの犠牲者を出し、ふじみ野市では空襲の被害は無かったものの、戦死・戦病死により200人以上の人が亡くなりました(昭和30年代の集計)。福岡村や大井村の記録には、次々と出征する兵士たちを東武東上線 上福岡駅まで見送り、3年間の兵役を終えて無事に帰還した兵士を出迎えたこと、戦没者の遺骨を村全体で出迎えたことが「英霊帰還」として残されています。福岡村や大井村では小学校



▲令和2年度に市民から折り鶴を募集し、広島・長崎に送った千羽鶴



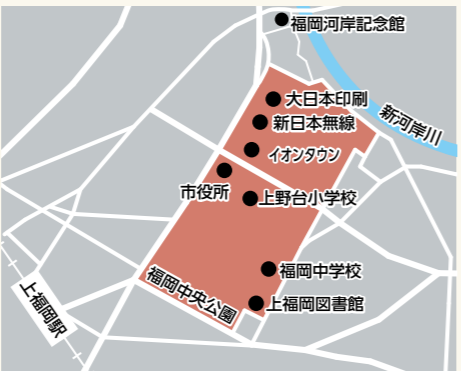
▲上福岡駅での出征兵士の見送り

に「忠魂碑」が建てられ、地域の人による戦没者への慰霊が行われるようになりました。現在も、ふじみ野市遺族会や地域の人により戦没者の記憶を後世に永く伝える取り組みが続けられています。

また、昭和12年には福岡村の広大な畑地に通称「火工廠」(東京第一陸軍造兵廠川越製造所)と呼ばれる陸軍の弾薬工場が建設されました。土地を買収される農民は反対運動を起こしましたが、建設は進められました。操業開始後も規模は拡大していき、最終的には約55万㎡になりました。多い時には、



▲昭和56年に市内で不発弾処理された爆弾(川崎)



火工廠の範囲(最大時)

7000人も人が働いていて、福岡国民学校や川越中学校などから14才前後の学生、女子挺身隊などの勤労働員された人たちが働いていました。学徒動員で働いたことがある人のお話から火工廠の様子を知ることができます。

平和への思い

ふじみ野市が誕生する前の旧上福岡市では「上福岡市非核平和都市宣言」を、旧大井町では「緑と平和の都市宣言」をしていました。合併とともにその効力は失われましたが、合併後も平和事業を継続して実施しつつ、合併5周年を迎えた平成22年10月1日に「ふじみ野市平和都市宣言」をしました。

ふじみ野市平和都市宣言

世界の恒久平和は、人類共通の願いです。この願いを実現するために、私たちは唯一の被爆国として、広島・長崎の惨禍を忘れることなく、核兵器の廃絶を世界に訴え続けています。しかし、今なお世界の各地では武力抗争が絶えず、自然や文化が破壊され、多くの尊い命が失われています。

私たちは、家族を愛し、ふじみ野市を愛し、日本を愛し、美しい地球を愛します。私たちは、誰もが安全で安心な生活を営むことができる平和な世界の実現に寄与することを誓います。ここに、ふじみ野市から平和の大切さを発信するため、「平和都市」を宣言します。

平成22年10月1日

ふじみ野市

宣言では、戦争などの武力により、人命だけでなく自然や地球上のさまざまな生命が奪われていることから、平和に対するあらゆる脅威を取り除き、恒久平和に寄与する決意を表明しています。

また、今を生きる人々と未来に生きる人たちの幸せを願い、そして身近な家族や地球を愛することが平和な世界の実現につながるの思いを盛り込んでいます。

※平和推進事業の詳細は、市報9月号でお知らせします。

じっとしているだけでは、本当の世界平和を伝えることができない

平和推進事業は、市民により構成される実行委員会で意見を出し合... 中野 則之さん



平和推進事業実行委員会 会長 中野 則之さん

「戦争体験者がいなくなっていく中で、戦争を体験していない人たちに戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えていくことが一番大切。」

今生きる人たちに任せる



小室 豊さん

徴兵から捕虜の経験... 昭和19年、当時19歳だった小室さんは、役場からの指示で川越の訓練場(武徳殿)で徴兵検査を受け、優秀な成績(甲種)に選ばれた後に入隊し、3カ月間の軍隊教育を受けました。



▲19歳当時の写真

「この話を知ってもらい、今を生きる人たちがどう思うか、そしてどう行動するか、話したことが考えるきっかけになればと思います。」

戦争を超えて 伝えられた品々

ふじみ野市には、戦争をしていく時期や当時の社会を物語る品が残されています。軍服・飯(ごう)・背囊(リュック)・鉄兜(ヘルメット)などの装備類、軍隊手帳・階級章・軍事教練(訓練)に使用した武器、除隊記念の杯(さかすき)・寄せ書きされた日章旗などの記念品、出征や訓練の写真・

日記・手紙、火工廠で使用していた道具、役場に残された戦没者の記録、空襲警報や避難の様子が記された学校日誌などさまざまなものがあります。それらの品は、単なる記念品ではなく、物資不足の中で普段の日常生活に利用されました。長い年月と戦時・平時という時代の波をくぐり抜けて戦争を語る品々が今日まで伝えられてきたのです。

平和推進事業巡回企画展

戦争の記憶 ～戦時と平時の間で～

戦争と平和、戦時と平時の関係について考えるため、戦争の記憶を伝えるさまざまな資料を展示し、それに関する地域の人の取り組みを紹介します。



場所・期間 下表のとおり

Table with 2 columns: 場所 (Location) and 期間 (Period). Locations include 上福岡歴史民俗資料館 and 大井郷土資料館. Periods range from July 17 to August 22 and August 28 to September 20.

※開館時間はいずれも午前9時～午後4時30分。

上福岡歴史民俗資料館 (TEL)049・261・6065 大井郷土資料館 (TEL)049・263・3111

図書館映画会・展示

戦争や平和について学ぼう

●平和を考えるえいが会

日時 8月15日(日)午前11時～11時40分 (10時30分開場)

場所 上福岡図書館 2階視聴覚ホール

内容 ①「しんちゃんのおさんりんしゃ」(24分)

食べ物も遊び道具もない戦争末期、しんちゃんはおじさんからもらったすてきな三輪車で遊んでいて原爆にあい、亡くなった。

②絵本の読み聞かせ

戦争や平和について考えられる本の読み聞かせを行います。

対象 どなたでも

定員 30人(先着順)

●図書館展示

Table with 3 columns: 内容 (Content), 期間 (Period), 場所 (Location). Displays include '戦争と平和を考える', '平和への祈り', '戦争を考えよう', '戦争と平和', and 'LOVE & PEACE'.

上福岡図書館 (TEL) 049・262・3710

大井図書館 (TEL) 049・263・1100